

コロナの夏、絶望乗り越えつかみ取った頂点



夏季岩手県高等学校野球大会優勝
(全国高校野球選手権岩手大会の代替大会)

佐々木 春磨 さん

ささき・はるま 17歳 一関学院高3年

平成14年生まれ。扇畑出身。安代小4年のときにスポーツ少年団に入団し、野球を始める。安代中3年でKWBボール県選抜に選ばれ、主将としてチームを全国大会3位に導く。趣味は釣りと筋トレ。座右の銘は「雪に耐えて梅花麗し」。身長165^{cm}、体重70^{kg}。

「ずっと目指してきた県ナンバードワン。とてもうれしかった」と笑みを広げたのは、一関学院捕手の佐々木春磨さん。甲子園に出場するため、捕手の育成に定評のある同校に進み、練習中から「県大会優勝、甲子園ベスト8」を口にするなど、目標を強く意識してきた。

「甲子園とは夢舞台、譲れない場所」ときっぱり。だからこそ、夏の甲子園大会中止はショックだった。代替大会開催が決まった後も「優勝したところで甲子園でプレーする夢は叶わない」。目標を失い、練習に身も入らず、最悪のチーム状況に陥った。

そんなときに監督から「目標と目的は違う」と話があった。なぜ、この目標を掲げてきたのかチームで問い、対する答え「これまでやってきたことを証明する。一関学院の歴史を塗り替える」という二つの目的を果たそうと、考えを切り替えた。

2年の秋に左手首を骨折。4

月下旬に復帰するまでリハビリに時間を要した。復帰後、何が正しいプレーなのか分からず、結果を残せなかったが、大会前の5、6月毎日午後10時まで自主練を続け、迷いを振り切った。

左手に痛み止めを打ち、満身創痍で臨んだ今大会、巧みなりードで投手陣の力を引き出し、チームの堅守を支えた。盛岡大付との決勝では、試合を決定づける中前打など3安打を打ち、3年間やってきた証を示した。代替大会のため記録は夏の岩手大会に継承されないが、コロナの夏、前例のない大会を制し、歴史をつくった。

東北大会は接戦の末、仙台育英に敗退。「このメンバーで負けると思わなかった」と悔しさをにじませ、夏は終わりを告げた。卒業後は「お世話になった地域に寄り添いたい」と消防士を目指す。「全然勉強できていなくて、がんばって追い込みます」。次なる目標へ駆け足。表情は明るい。

【広告】

君のロボットが
いま動き出す!

小学校から始める
プログラミング! 英会話

年齢や回数に応じたコースがありますので、安心して学べます!
子供だけでも、大人と一緒にでもお気軽にお問合せください!

無料で体験もあるよ!

自分で組み立ててプログラムで動かそう!

STEM KIDS 八幡平市大更 23-100-1 (養老乃瀧の入口)
TEL.080-6034-0742
IWATE サイモン先生と一緒に学ぼう!

■編集後記

▽キラリ輝人で紹介した佐々木春磨さん、実は3年前にも紹介しています。当時から「甲子園」と目標をはっきりと答えていた彼を3年ぶりにインタビューして、真剣に野球に向き合ってきた濃密な3年間を垣間見れた気がしました。ますます甲子園でプレーする姿を見たかったです。(多)
▽八幡平ヒルクライムを取材。多くの大会が中止となる中、選手たちは自分の記録を残すため万全な体調での大会に臨んでいるようでした。頑張る選手のためにも晴れてほしかったですが、あいにく雨が降ったり止んだり。の天気。それでも走り終えた選手たちの笑顔が印象的でした。(吾)